

2016年10月19日

報道関係各位

日本イーライリリー株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

2型糖尿病のインスリン治療に関する医師と患者さんへの意識調査 患者さんの約9割は、インスリン治療に関する説明を受けても 『わざわざ始めなくても今の治療で大丈夫』と認識

－ 医師への相談や、治療への前向きな姿勢が、インスリン治療開始のポイント －

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン)と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:青野吉晃)は、2型糖尿病におけるインスリン治療について、2型糖尿病を診療し、患者さんに対してインスリン治療の導入を実施している医師173名(以下、医師)と、インスリン治療の説明を受けたことはあるがインスリン治療を開始していない2型糖尿病患者さん148名(以下、インスリン未治療の患者さん)、およびインスリン治療開始から1年以内の2型糖尿病患者さん50名(以下、インスリン治療中の患者さん)を対象に調査を実施いたしました。

調査の結果、2型糖尿病治療において医師からインスリン治療に関する説明を受けたもののインスリン未治療の患者さんの89.2%が、インスリン治療について「わざわざインスリンを始めなくても、今の治療のままで大丈夫」と認識していることが明らかになりました。

医師と患者さんの、インスリン治療に関するコミュニケーションの実態をみると、患者さんに「インスリン治療が必要な段階にきている」と説明している医師は97.2%でした。一方患者さんの医師とのコミュニケーションに対する意識についてみたところ、インスリン未治療の患者さんの81.1%がインスリン治療について医師に「相談してみたいと思ったことがない」と回答し、相談意向が低いことが伺えました。また、インスリン治療中の患者さんにおいては「相談してみたいと思ったことがある」と回答した患者さんが54.0%に上り、インスリン治療を開始しているかどうかで患者さんの医師への相談意向に差が見られました。

インスリン治療中の患者さんにインスリン治療を開始した理由を聞くと、「HbA1cの値を改善したかった」「飲み薬では十分な治療効果が得られなかった」など治療に前向きな姿勢が多くみられました。また、医師から見てスムーズにインスリン治療の開始に至る患者さんの共通点について質問したところ、「治療への意欲が高い」「理解力がある」など患者さんのインスリン治療に対する積極性を理由にあげる回答が多くみられました。本調査の結果から、インスリン治療を開始する上で、医師は患者さんが「なぜ今のままで大丈夫と思っているのか」の理由や意向を問いかけるようなコミュニケーションが重要であることが示唆されました。

【主な結果】

「わざわざインスリンを始めなくても、今の治療のままで大丈夫だ」など患者さんのインスリン治療に対する意識の課題が浮き彫りに

- ◆ インスリン治療の必要性について説明はを受けたもののインスリン未治療の患者さんの89.2%が、インスリン治療について「わざわざインスリンを始めなくても、今の治療のままで大丈夫だ」と認識していると回答。インスリン治療開始の提案について「困っていることは特にはない」と回答した医師は11.0%に過ぎず、医師の約9割がインスリン治療の提案で困っており、「インスリン治療の必要性を理解してくれない」(59.5%)や「説明する時間が取れない」(48.0%)などの課題がある。

インスリン治療に関するコミュニケーションでは、患者さんの相談意向が低い

- ◆ 「インスリン治療が必要な段階にきている」と説明している医師は97.2%で、医師側からの説明は十分にされている。一方、インスリン未治療の患者さんの81.1%が医師に「相談してみたいと思ったことはない」と回答し、相談意向が低いことが伺える。

インスリン治療後からみる治療開始のポイントは、「治療への意欲」、「理解力」、「病識」

- ◆ 54.0%のインスリン治療中の患者さんが「医師に相談してみたいと思ったことがある」と回答しており、インスリン未治療の患者さんに比べ相談意向が高い。インスリン治療を開始した理由として「HbA1cの値を改善したかった」「飲み薬では十分な治療効果が得られなかった」など治療への前向きな姿勢が聞かれた。医師にインスリン治療の開始がうまくいく患者さんの共通点を聞いたところ「治療への意欲が高い」(20.8%)、「理解力がある」(17.9%)、「病識がある」(16.2%)などがあがった。

【調査概要】

調査目的 : 2型糖尿病におけるインスリン治療の開始に関する課題を明らかにする

調査対象 : ・2型糖尿病を診療し、患者さんに対してインスリン治療の導入を実施している医師(173名)
・医師からインスリン治療の説明を受けたことはあるがインスリン未治療の2型糖尿病患者さん(148名)
・インスリン治療開始から1年以内で、現在も治療継続中の2型糖尿病患者さん(50名)
※()の中は有効回答数

調査地域 : 全国

調査手法 : インターネット調査(実査は株式会社メディリードに委託)

調査時期 : 2016年8月5日~8月9日

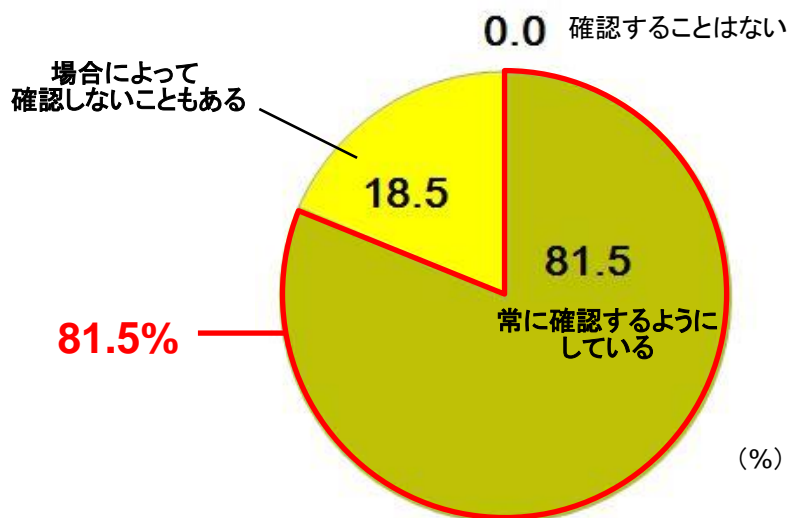
【調査結果】

糖尿病治療全般に関して

■2型糖尿病の治療方針や治療目標を決める際に、患者さんの希望を常に確認する医師は81.5%

Q1(医師への質問)

2型糖尿病の治療方針や治療目標を決める際に、患者さんの希望を確認されますか。以下の中から最もよくあてはまると思われるものをひとつだけお選びください。(単一回答)(n=173)

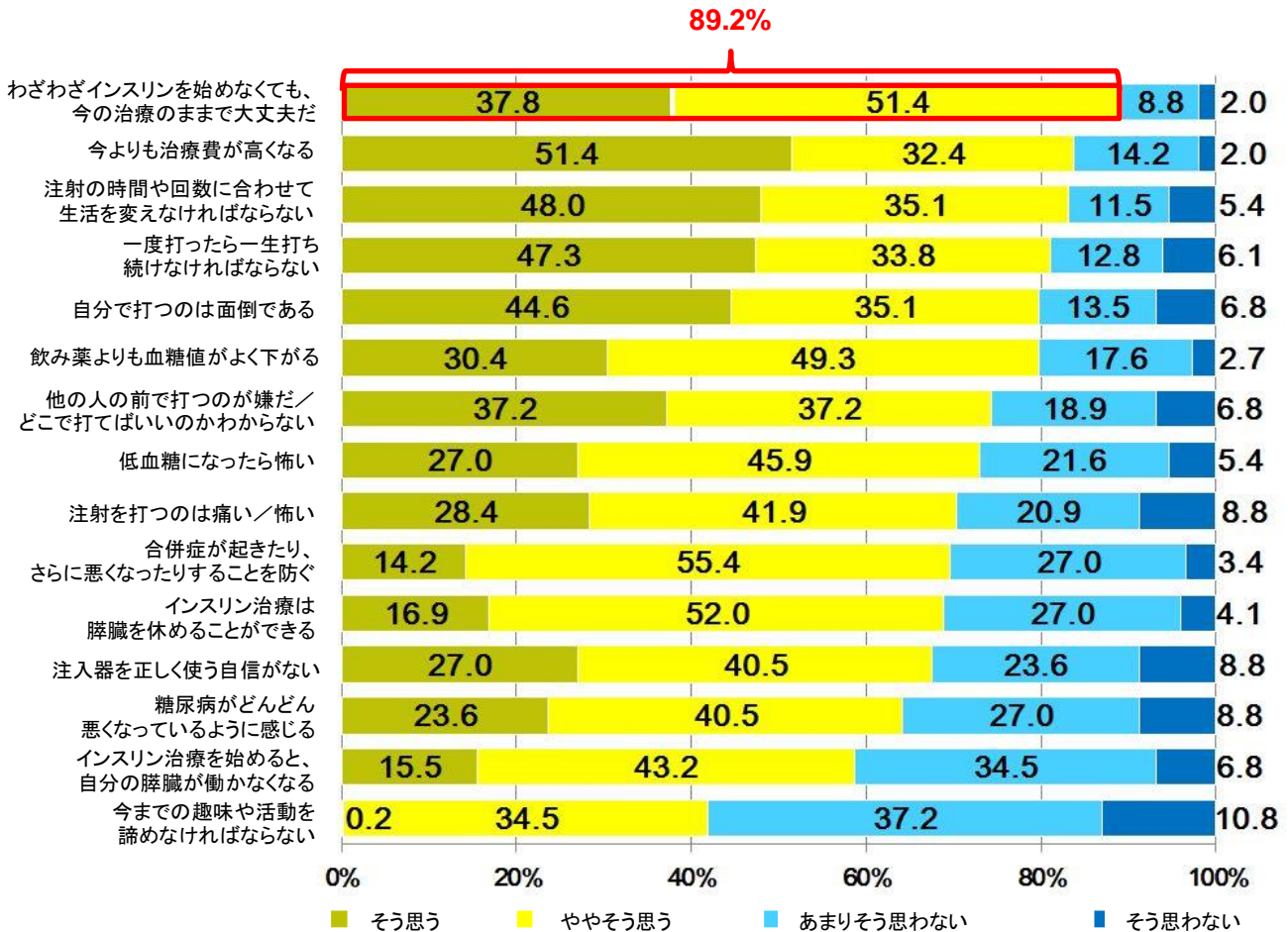


インスリン治療に関して

■インスリン治療に関する説明を受けても、インスリン未治療の患者さんの約9割が「わざわざインスリンを始めなくても、今の治療のままで大丈夫だ」と回答

Q2(インスリン未治療の患者さんへの質問)

現在のあなたの、インスリン治療についての考えに当てはまるものを、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の中からお選びください。(複数回答)(n=148)

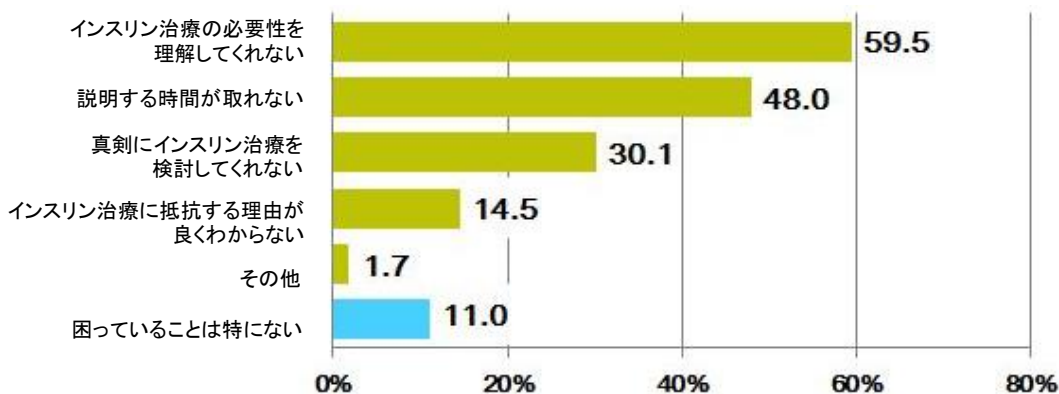


■患者さんにインスリン治療を提案する際に、医師の約9割は“何かしら困っていることがある”状況

インスリン治療を提案する際に医師が困ることの1位は、患者さんが「インスリン治療の必要性を理解してくれない」(59.5%)、2位は「説明する時間が取れない」(48.0%)

Q3(医師への質問)

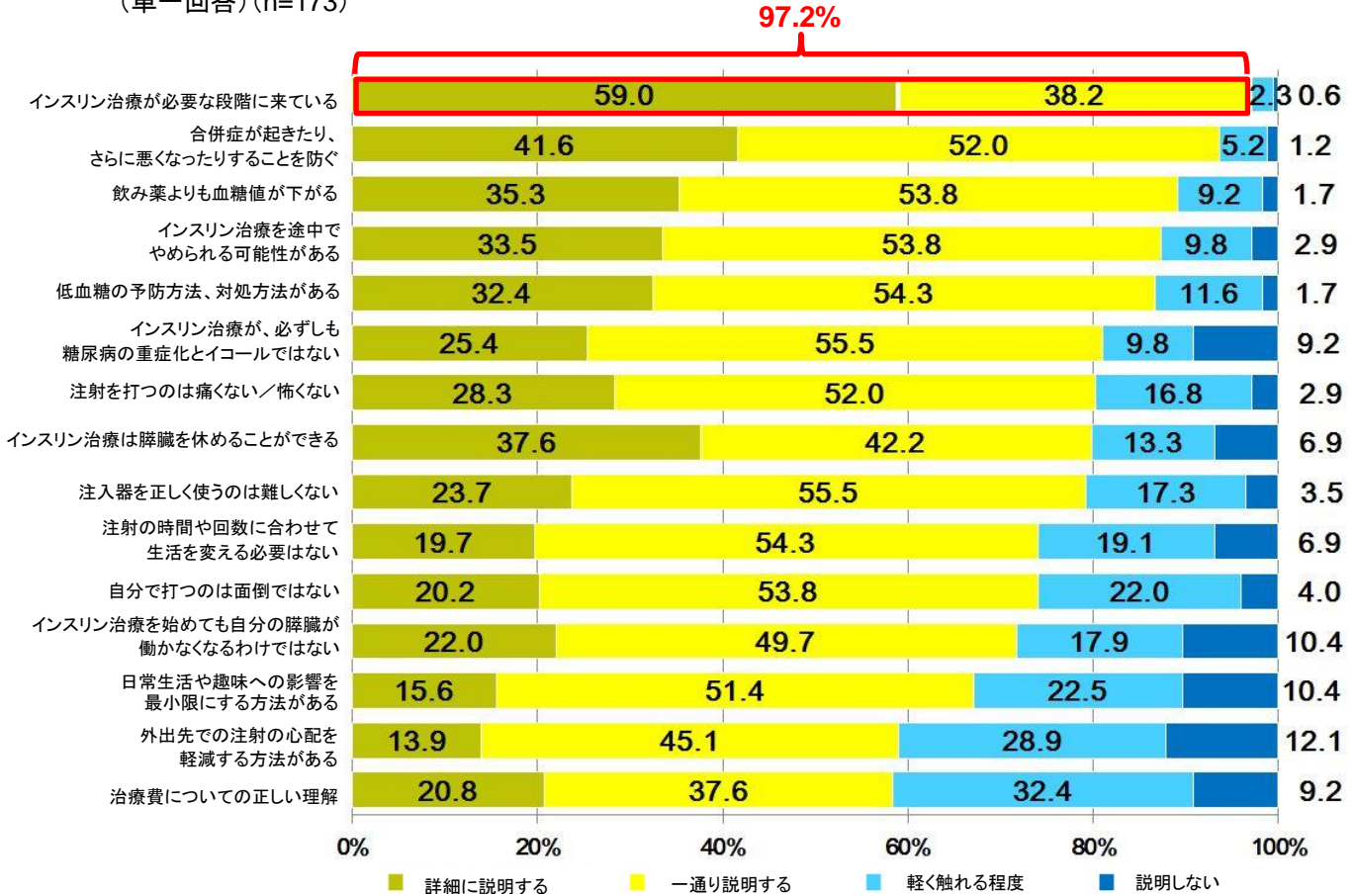
患者さんにインスリン治療を提案する際に、先生がお困りのことはどのようなことですか。以下の中からあてはまるものを全てお選びください。(複数回答)(n=173)



■9割以上の医師が「インスリン治療が必要な段階に来ている」ことを患者さんに詳細に、または一通り説明している

Q4(医師への質問)

患者さんにインスリン治療を提案する際に、先生ご自身は各項目についてどの程度詳しく説明されますか。(単一回答)(n=173)

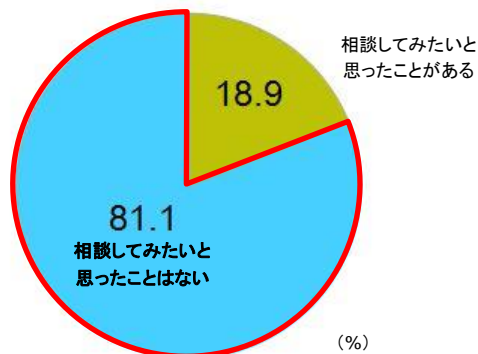


■インスリン未治療の患者さんの8割以上が、「インスリン治療について医師に相談してみたいと思っただけ」がない。一方、インスリン治療中の患者さんは、「相談してみたいと思っただけ」が半数以上

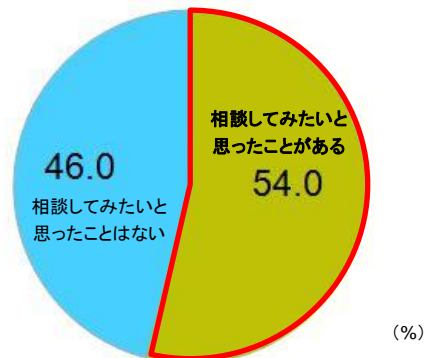
Q5(インスリン未治療の患者さん、インスリン治療中の患者さんへの質問)

今までに「インスリン治療」について、医師に相談してみたいと思っただけはありましたか。(単一回答)

<インスリン未治療の患者さん:n=173>



<インスリン治療中の患者さん:n=50>

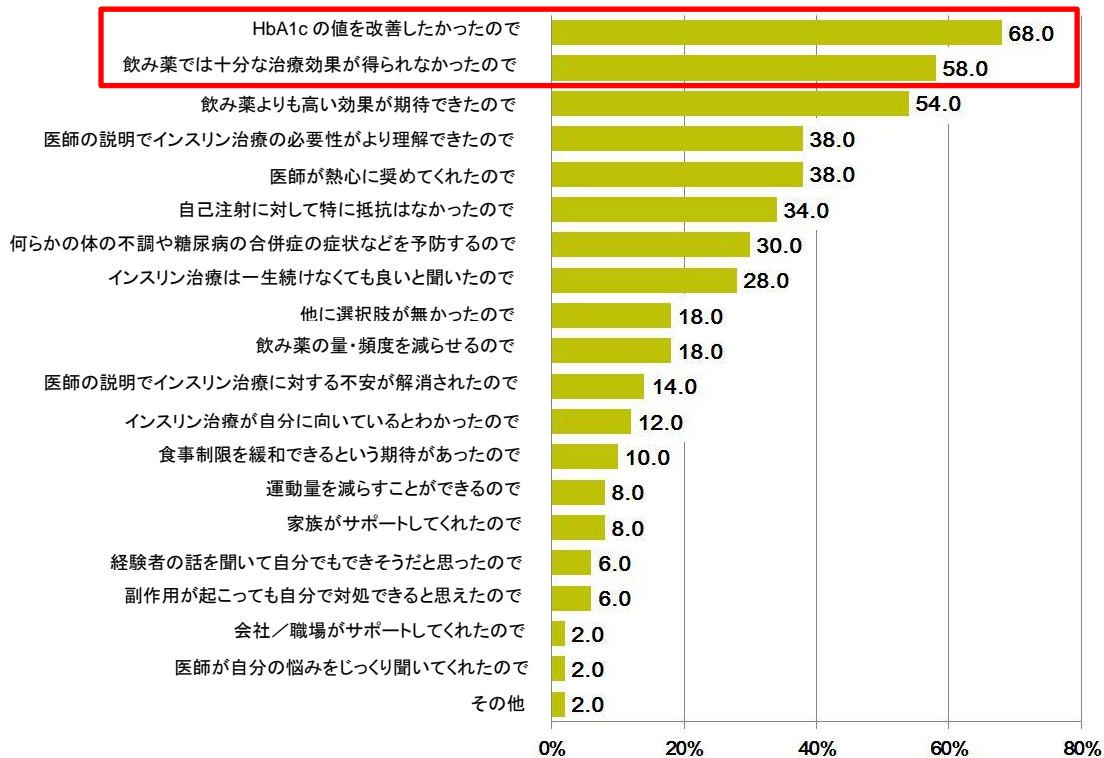


インスリン治療中の患者さんがインスリン治療を始めた理由

■インスリン治療を始めた理由は「HbA1cの値を改善したかったので」、「飲み薬では十分な治療効果が得られなかったので」など患者さんの治療への前向きな姿勢がうかがえる

Q 6(インスリン治療中の患者さんへの質問)

あなたが「インスリン治療」を始めたのはなぜですか。以下の中からあてはまるものを全てお選び下さい。(複数回答)(n=50)

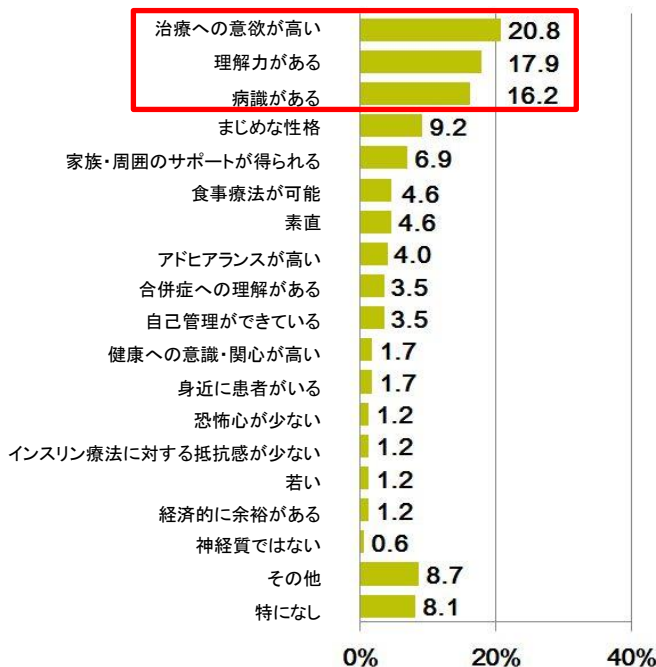


■医師が考えるインスリン治療の開始がうまくいく2型糖尿病患者さんの共通点は1位「治療への意欲が高い」(20.8%)、2位「理解力がある」(17.9%)、3位「病識がある」(16.2%)

Q7(医師への質問)

先生の日からご覧になって、インスリンの治療導入がうまく行く2型糖尿病患者さんにはどのような共通点がありますか。どんなことでも結構ですので、思いつく患者さんの特性を出来るだけ詳しくご記入ください。

(自由回答)(n=173)



※自由回答を類似の結果に分類し集計

イーライリリー・アンド・カンパニーとベーリンガーインゲルハイムの提携について

2011年1月、イーライリリー・アンド・カンパニーとベーリンガーインゲルハイムは、糖尿病領域におけるアライアンスを結び、同領域において大型製品に成長することが期待される治療薬候補化合物を中心に協働していくことを発表しました。同アライアンスは、イーライリリー・アンド・カンパニーが持つ糖尿病領域での革新的な研究、経験、先駆的実績とベーリンガーインゲルハイムが持つ研究開発主導型イノベーションの確かな実績を合わせ、世界的製薬企業である両社の強みを最大限に活用するものです。この提携によって両社は、糖尿病患者ケアへのコミットメントを示し、患者のニーズに応えるべく協力しています。

イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは1923年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病患者さんやケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病患者さんの生活の改善に努めます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lillydiabetes.com>

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、疼痛、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん、結腸・直腸がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムグループは、世界でトップ20の製薬企業の1つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で146の関連会社と47,700人以上の社員が、事業を展開しています。1885年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物薬の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任は企業文化の重要な柱であり、その中にはグローバル規模のイニシアチブ「Making More Health(人々のより良い健康の実現を目指して)」をはじめとする社会的なプロジェクトへの関与や、社員への思いやりの精神などがあります。また、お互いに配慮し、平等な機会を提供し、業務やキャリアと家族生活との調和を重んじることは、相互協力の基盤となるものです。また、あらゆる場面で環境保護と持続可能な社会の実現に向けて注力しています。

2015年度は148億ユーロ(約1兆9873億円)の売上高を達成しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、売上の20.3%相当額を研究開発に投資しました。

日本ではベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社が持ち株会社として、その傘下にある完全子会社の日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(医療用医薬品)、エスエス製薬株式会社(OTC 医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム ベトメディカ ジャパン株式会社(動物用医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム製薬株式会社(医薬品製造)の4つの事業会社を統括しています。

日本ベーリンガーインゲルハイムは、循環器、呼吸器、糖尿病、腫瘍、中枢神経などの疾患領域で革新的な医療用医薬品を提供しています。

<http://www.lilly.com> (イーライリリー・アンド・カンパニー)

<http://www.lilly.co.jp> (日本イーライリリー株式会社)

<http://www.boehringer-ingelheim.com> (ベーリンガーインゲルハイム株式会社)

<http://www.boehringer-ingelheim.co.jp> (ベーリンガーインゲルハイムジャパン株式会社)